

### 4 課題

各事例から出された課題の主なものを整理してみよう。

#### (1) コーディネーション機能の充実

イベント的な体験活動やボランティア活動をいかに日常的なレベルにつなげ、そして、まちづくりにつなげていくか、また、ボランティア研修や養成講座を受講した人に、いかに活動の場を提供していくかという課題が挙げられている。

一つの方策として、コーディネーション機能の充実が考えられる。体験活動やボランティア活動の場の開拓、そしてボランティア希望者と受け入れ先のコーディネーション等が機能的にできれば、課題解決の方向性を見い出せるのではないか。事例に登場した鹿沼市立北小学校で意欲的に活動を続けている「北光クラブ」のようなコーディネーション機能を持ったサークルの実践が良いヒントとなるだろう。

#### (2) ボランティア活動を支える組織的な機能の整備

ボランティア活動を継続的に実践することが課題となっている。事例にある烏山青年の家のウェブでは、高校で実践したボランティア活動が発展し、青年の施設ボランティアとして継続されているが、このように、新たに活動拠点をもち、施設等と連携しながら展開したり、活動を支える組織的な機能を整備したりしていくと継続性を保つ可能性が高くなるであろう。

#### (3) 効果的な情報提供と支援者のための研修のあり方

より活動を充実し活性化するためには、体験活動やボランティア活動に関する効果的な情報提供や、支援をする人のための研修等についても検討が必要と思われる。